

平成 29・30 年度 土木学会複合構造委員会 第 10 回幹事会議事録

日 時：平成 30 年 10 月 23 日（火）14:00～17:00

場 所：土木学会 F 会議室

出席者：西崎委員長，下村副委員長，溝江幹事長，大久保幹事，葛西幹事，川端幹事，北根幹事，
斉藤(成)幹事，齋藤(隆)幹事，平幹事，滝本幹事，中村幹事，仁平幹事，橋本幹事，
広瀬幹事，牧幹事，松本幹事，杉岡事務局

配布資料：

幹 10-0	平成 29・30 年度複合構造委員会第 10 回幹事会議事次第
幹 10-1	平成 29・30 年度複合構造委員会第 9 回幹事会議事録（案）
幹 10-2	平成 30 年度委員会予算執行状況
幹 10-3	平成 30 年度全国大会・年次学術講演会 報告
幹 10-4	平成 30 年度全国大会・研究討論会 報告
幹 10-5	第 7 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム
幹 10-6	第 2 回日中シンポ 準備状況報告
幹 10-7	土木学会論文集 A1 特集号：複合構造
幹 10-8	出版関連報告
幹 10-9	（欠番）
幹 10-10	継続教育小委員会の設立
幹 10-11	プレキャスト工法有効利用に関する調査研究小委員会の設立
幹 10-12	複合構造委員会小委員会一覧
幹 10-13	（欠番）
幹 10-14	（欠番）
幹 10-15	H107 グリーンインフラとグレーインフラの融合に関する研究小委員会
幹 10-16	（欠番）
幹 10-17	H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会
幹 10-18	（欠番）
幹 10-19	H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
幹 10-20	（欠番）
幹 10-21	H218 FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会
幹 10-22	（欠番）
幹 10-23	平成 30 年度功績賞候補の推薦依頼
幹 10-24	次期委員長選挙
幹 10-25	委員交代

議事内容：

1. 委員長挨拶

開会に先立ち，西崎委員長より挨拶があった。

2. 複合構造委員会第 9 回幹事会議事録案確認（資料 幹 10-1）

仁平幹事より資料に基づき説明があった。以下の点を修正の上で承認された。

「12. 継続教育小委員会の設立」において，以下の 2 行を削除する

(温故知新セミナーについて)

- ・温故知新セミナーは、新委員会が設立されても、引き続き企画 WG に担当していただきたい。

また以下の補足説明があった。

「15. 小委員会報告審議 (2) H106 FRP による補修・補強指針作成小委員会」において、講習会の「参加者数はコンクリート委員会と折半」ではなく、複合構造委員会が総取りしてもよい、との情報が下村副委員長からあった。

「13. 構造系 3 委員会・連絡会議」について、鋼構造と構造工学は小委を検討する、また HP 連携として相互リンクをはる、という情報が斉藤（成）幹事からあった。

3. 平成 30 年度委員会予算執行状況（資料 幹 10-2）

溝江幹事より資料に基づき説明があった。全国大会時、研究討論会パネリスト 1 名旅費と事務局 1 名旅費の執行があった。半期過ぎて支出は約 30 万円ほどであるので、必要な執行を進めて欲しい。一方で、示方書小委はあまり支出がない見通しが示された。

4. 平成 30 年度全国大会・年次学術講演会報告（資料 幹 10-3）

齋藤（隆）幹事より資料に基づき説明があった。共通セッションの参加人数が報告された（最小 22 名、最大 50 名）。今年は直前にセッションの部屋の変更などがあった。

5. 平成 30 年度全国大会・研究討論会報告（資料 幹 10-4）

松本幹事より資料に基づき説明があった。参加人数は 94 名であった。入室できない人もおり盛況であった。

6. 第 7 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム（資料 幹 10-5）

大久保幹事より資料に基づき説明があった。11 月 8 日（木）昼より 9 日（金）夕刻まで開催される。講演 27 件、パネル展示 8 件が発表される。事前参加申し込みは 20 名ほどであるが、当日申し込みでさらに増えると想定している。準備は順調に進んでおり、意見交換会も含めて協力の依頼があった。

資料 2 ページ 1 行目の「8 日（金）」は「8 日（木）」の間違いである。

中村幹事より推薦 WG も順調に進んでいるとの報告があった。9 日シンポ終了後にシンポ小委が開催され、推薦 WG の作業を行う。

7. 第 2 回日中シンポ 準備状況報告（資料 幹 10-6）

松本幹事より資料に基づき説明があった。10 月 24 日（水）から 28 日（日）まで同済大学主催で開催される。正式な資料ではないが日本側橋梁分野からは 38 名の参加となりそうである。

8. 土木学会論文集 A1 特集号：複合構造（資料 幹 10-7）

溝江幹事より資料に基づき説明があった。現在は事前査読の段階である。招待論文は邊吾一先生に執筆打診中で返事待ちである。もし無理な場合、藤井善通先生に依頼予定である。小委報告（H106）は依頼済みである。第 6 巻から、土木学会論文集が XML 形式対応になるため支出が増加するが、特集号の掲載費は現状維持とすることとした。

中村幹事からは、推薦 WG の推薦決定後にシンポ小委から著者に推薦を知らせるとの手順説明があった。一方で自薦の案内は、推薦と同じタイミングにすることとして、論文集特集号編集小委の橋本幹事長に確認することとした。

9. 出版関係報告（資料 幹 10-8）

溝江幹事長より資料に基づき説明があった。全体的に大きく変わったものはない。何点か原価回収部数に達していないものがある。

10. 書籍英訳化 状況報告

溝江幹事長より説明があった。英訳化は最後の章に取り組んでいる状況であり、年度内に完了しそうな見込みが示された。

11. 継続教育小委員会の設立（資料 幹 10-10）

中村幹事より資料に基づき、設立趣意書や委員構成の案などの説明があった。WG 二つ（温故知新 WG と e-ラーニング WG）の体制とし、2 年間の任期とする。名称と略称（H006？）を確定させる必要がある。

以下の議論があった。

- ・親委員会新執行部発足とタイミングを合わせるのがいい。
- ・温故知新セミナーは隔年開催とするか？
- ・4 月に小委任期開始とすると 7 月開催は間に合わない。親委員会時（6 月か 12/1 月）に任期開始とするのいいのでは。
- ・一般市民向けのイベントもいつかできるといい。
- ・講習会は終了小委が集まって開催し、温故知新と隔年開催してはどうか。
- ・温故知新 WG の名称をセミナー WG として役割再考もありうる。
- ・幹事会の企画 WG は、新規小委、重点研究、などの一般的な検討を行う位置づけとなる。
- ・e-ラーニング教材を作成して公表するにあたり、「成果の公表に関する申し合わせ」の改正について継続教育小委で検討する。

委員構成については、①e-ラーニング WG の候補に説明し承諾を得る、②温故知新 WG のほか一名は鋼構造分野の人とする、③オブザーバーはアドバイザーとする、こととした。次回親委員会に設立趣意書を提出して説明を行う準備をするが、一桁番台小委もこのような手順でいいのかを溝江幹事長が確認する。

12. プレキャスト工法有効利用に関する調査研究小委員会の設立（資料 幹 10-11）

渡辺委員より資料に基づき説明があった。H150 番台の委員会とし、2019 年中に開始（当初 1 年を予定）を考えている。

以下の質疑があった。

Q コンクリート委員会での取り組みの進捗状況は？

A 前回の示方書改訂時にプレキャスト編が設けられた。現在は 2 種委員会で詳細を検討中であり来年度いっぱい活動である。ライブラリーとして指針案を出版する予定であり、次の示方書に反映される。

Q 複合は材料によらずに検討すると思うが、コンクリート委員会との関係は？

A まず対象材料が異なる。独立して取り組み、成果が共有できればいい。

Q 二種委員会は一種委員会の誤記では？

A 誤記であり、修正する。

Q 示方書にはどう反映するか？

A 基本的な原則を記載することとして、詳細は指針に注力してまとめることとする。

Q 示方書委員会からは誰が入るか？

A 設計編と施工編の主査に任せる。

Q 人数は何人くらいか？

A 10人強を考えている。

以上の審議を経て幹事会で承認した。メンバーの選定は進めていくこととし、1月の親委員会では内藤委員長候補より説明がされるように準備する。

13. 小委員会報告審議

・H101 複合構造標準示方書小委員会

斉藤幹事より説明があった。小委幹事会で審議をしているが、構成をドラスティックに変える話が進んでおり、1年遅れそうな見込みである。

・H106 FRPによる補修・補強指針作成小委員会

中村幹事より説明があった。委員会は終了しており、大阪と北海道の地方講習会の準備が進んでいる。コンクリート委員会との共催であり、申し込みがもうすぐ始まる。大阪は本部開催、北海道は支部開催である。九州は依頼中・日程調整中であり、コンクリート委員会との共催を考えている。年明けになる見込みである。

・H107 グリーンインフラとグレーインフラの融合に関する研究小委員会（資料 幹10-15）

溝江幹事長より資料に基づき説明があった。第2回委員会は大阪で開催される。これに向けて各WGで活動中である。

・H151 複合構造物の疲労照査法に関する調査研究小委員会

溝江幹事長より説明があった。次回の幹事会で小委活動期間延長の有無を確認する。

・H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会（資料 幹10-17）

溝江幹事長より資料に基づき説明があった。2017年4月より暴露試験を継続中であるが、追加試験を企画している。今月に試験体を沖縄に設置する。

・H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会

川端幹事より説明があった。1月22日の報告会に向けて報告書を取りまとめ中である。学会誌への案内掲載は1月号となり間に合わないのので、ネットで掲載として学会メルマガ12月号で案内する。杉岡事務局に開催案内を渡すようにする。

・H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会（資料 幹10-19）

松本幹事より資料に基づき説明があった。全国大会の研究討論会が盛況のうちに開催された。本日第8回小委を開催し、引き続きブラインド部材性能評価について進めている。

・H217 コンクリート充填鋼管部材の活用に関する調査研究小委員会

溝江幹事長より説明があった。三つのWGが活動中である。11月に盛岡で秋田新幹線のCFT柱を見学する。

・H218 FRP複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会（資料 幹10-21）

西崎委員長より資料に基づき説明があった。三つのWGが活動中である。次回小委は11月20日にもおつくり大学にて開催される。委員1名の所属変更と1名の新規委員参加があり、名簿が変更された。

・H219 床版取替における既設合成桁橋の設計・施工技術に関する研究小委員会

大久保幹事より説明があった。11月29日に第2回小委開催を予定しており、話題提供を頂く。

14. 平成30年度功績賞・国際貢献賞・国際活動奨励賞・国際活動協力賞候補の推薦依頼（資料 幹10-23）

溝江幹事長より資料に基づき説明があった。候補者について委員に呼び掛けることとした。今後来る田中賞についても同様の手順とする。

15. 次期委員長選挙（資料 幹10-24）

溝江幹事長より資料に基づき説明があった。委員長候補選出方法について確認した。また、顧問は投票権をもたないことも確認した。11月中頃に案内のメールを配信する。

16. 委員交代（資料 幹10-25）

溝江幹事長より資料に基づき説明があった。委員交代後、新委員の任期は11月から3月とすることにした。旧委員の任期は3月までであり、民から学に所属を変更して引き続き任期を全うしてもらうこととした。新旧委員とも4月以降の次期執行部体制では保留とする。親委員会の承認は要らず、説明を行うことを確認した。

17. その他

特になし。

以上

（記録：松本）